

令和7年度 第5回福部地域振興未来会議 議事概要

- 日 時 令和8年1月27日（火） 9：00～10：30
- 会 場 福部町総合支所 2階 第2・3会議室
- 出席委員 上山弘子、宇山英俊、加藤美幸、岸本正枝、谷口孝義、中川玄洋、西尾祥幸、中島幹夫
（順不同敬称略）
- 欠席委員 岩崎幸子、西田一幸、濱田香、松田浩稔（順不同敬称略）
- オブザーバー 西日本旅客鉄道株式会社 中国統括本部 鳥取管理駅長 小川修司
- 事務局 米澤支所長、福山副支所長兼地域振興課長、瀬戸川産業建設課長、水戸口市民福祉課長、
多賀主任

1 開 会

2 議 題

(1) 鳥取砂丘グランドデザインについて（鳥取県生活環境部自然共生社会局自然共生課）

【鳥取県】 ～資料に沿って説明～

「鳥取砂丘グランドデザイン」とは、鳥取砂丘の保全・再生と利活用の好循環により、魅力を発信していく指針として、当時の鳥取砂丘再生会議が平成22年11月に策定した。

現在は、インバウンド需要増など、鳥取砂丘を取り巻く環境が大きく変化していることから、鳥取砂丘未来会議が令和8年1月に改訂を行った。

【事務局】 本日欠席の委員より、事前に本件についてご意見をいただいているのでお伝えする。

「鳥取砂丘の東側と西側のアクセスが良くなると利便性が高まる。土日はバスの利用者も多いことから、何か地域経済の活性化に繋がるような仕組みができないか。」とご意見をいただいた。

これについては、今年度の夏から秋頃にかけて行われたレンタサイクル及びジャンボタクシーの実証実験結果をお伝えする。（追加資料参照）

【委 員】 鳥取砂丘の東側と西側を繋げるのは難しいと思うが、逆に言うと西側に行く価値を見い出せていないのかもしれない。

【委 員】 観光客の人流を把握して検証していかないと、グランドデザインを策定してもこれまでと変わらない。

【鳥取県】 今、鳥取市の観光・ジオパーク推進課が人流ニーズを把握するためのアプリを構築しようとしている。

鳥取市観光コンベンション協会が作成した「鳥取砂丘周辺マップ」があり、砂丘に来られる方にどのようなニーズがあるのか、AIチャットボットシステムを活用して客観的なデータを掴むことを目指している。

もう1点は、ランドデザインに参画する鳥取大学農学部の学生が、鳥取砂丘を訪れる観光客のニーズ調査とアンケート調査を大型連休などのタイミングで行い、分析をしている。

【委員】 砂丘西側や多鯨ヶ池がもう少し魅力のある場所になれば良いと思っている。

【鳥取県】 鳥取砂丘ランドデザインでは、砂丘西側の主要ポイントを写真で紹介している。環境学習の拠点として建設した鳥取砂丘フィールドハウスのほか、グランピングなどができる滞在型複合施設や鳥取大学乾燥地研究センターの月面実証フィールド「ルナテラス」などがある。これらをいかに地元の方に周知していくかを鳥取砂丘ランドデザインでも議論している。

また、多鯨ヶ池についても整備が進められている。アクティビティとしてカヤックが注目されており、海岸よりも安全に楽しめることから、今後は修学旅行生の利用増加が見込まれる。

こういった新たな魅力を、地道にSNS等を活用しながらPRしていく事が重要だと考えている。

【委員】 今の鳥取砂丘を見ると草原化しており、数十年前とは違う姿になっている。砂防林の在り方について検討されれば、綺麗な鳥取砂丘になると考えている。

また、多鯨ヶ池を活かしていく新たなものをワーキンググループ等で検討すれば、鳥取砂丘の目指す姿も生きてくると考える。

【鳥取県】 砂防林については、鳥取大学の専門教授などのご意見をいただきながら管理を進めている。草原化の一因として、外部から雑草の種が飛び広がっている現状があるが、今年度は、約4千人近い市民とボランティア団体にご協力いただき、除草活動に取り組んだ。草原化の比較検証は5年に一度、上空からの撮影を行っており、次回は来年度に実施予定である。

多鯨ヶ池については、砂丘トンネル出口からの道路沿いにおいて、眺望が十分でないのご意見をいただいている。歩道付近に広がる草木は、地元団体の協力を得て、伐採の委託を行っている。

多鯨ヶ池を綺麗に見せていくために、官民連携で対応を進めるとともに、皆様のご理解をいただく取組やPRを考えている。

今後もこの地域振興未来会議で機会があれば随時報告していきたい。

[参考]

鳥取砂丘未来会議公式ウェブサイト

<http://www.tottorisakyusaisei.jp/index.php?view=4990>

(2) JR福部駅を拠点とした賑わい創出と鉄道利用促進について

(西日本旅客鉄道株式会社 中国総括本部：小川修司 鳥取管理駅長)

【事務局】 第3回福部地域振興未来会議において、委員の皆様からJR福部駅前広場の利活用について様々なご提案をいただいた。今回はJR鳥取管理駅長にお越しいただき、鉄道に関わる部分で協議を行っていく。

1. 賑わい創出について

《未利用地（JR所有敷地）の利活用案》

【JR】 弊社の未利用地で、列車の観覧をする事ができたり、お子様が安全に遊んでいたような場所として整備できないか検討していると伺っている。
この未利用地について、現時点では弊社として具体的な計画はない。
今後、鳥取市がJR福部駅周辺の整備等も含めて、弊社の未利用地を利用されたい場合は、貸付の契約も含めて協議ができればと考えている。
実際には、この用地と駅のホームの間にお客様用通路があり、線路沿いのフェンスまでであれば、安全にご利用いただけると考える。
ただし、地中に信号関係や駅の設備関係のケーブルが埋まっていることもあるので、JR福部駅前広場をどのように活用するのかを協議させていただければと考えている。

【事務局】 前回の会議において、各委員からいただいたご意見を事務局で検討を行い、全国の鉄道関連のホームページやブログ等を調べた。その中で、親子で一緒に鉄道を見に行く趣旨の記事があり、それを参考にさせてもらった。ウッドデッキのようなものを設け、子どもが高い視線で鉄道を見ることができたり、新幹線のような形をした遊具の設置がある公園、列車の往来を眺めることが可能なカフェなどがあつた。
建築物は地下の埋設物に影響するため、慎重な判断が必要だが、簡単なものであれば、設置可能かもしれないとの回答をいただいた。
この状況を踏まえ、JR福部駅前広場の整備にあたり、福部町がこういったものを望んでいるかを検討いただきたい。

【委員】 今回の未利用地は鳥取市の土地か。JR福部駅前広場のどこに何を配置するのかを決めないとイメージがつきにくい。

【委員】 提案をしていく期間と具体的に話を詰めていく期間を決めた上で、関係機関を交えてスケジュールを検討した方が良い。

【事務局】 皆様の色々な提案が出てこないと話には前に進まないと考えている。それが現実的にできるかどうかを固めていくのが事務局の役割となる。
前回の会議で、提案いただいた遊具やカフェなどを設置する候補地は、市の土地ではなくJRの土地であるため、鳥取管理駅長にお越しいただき、議論に加わっていた

いた。

期間については、J R 福部駅周辺の塩見川河川改修工事が令和 10 年度頃に竣工となる見込みであり、そこを一つの着地点に動くべきだと考えている。

一方、J R 西日本も鳥取駅周辺の再整備について本市と取り組んでおり、大きな事業として動いているが、鳥取駅だけが良くなっても、周辺の駅も良くならなければ鉄道の利用は進まない。福部駅もそういった事を念頭に置きながら、鉄道利用促進につながるような整備になればと考える。

【J R】 弊社の用地については、どういった埋設物や鉄線等が通っているかなどを調査し、検討させていただきたいと考えている。J R 福部駅前広場の敷地には、おそらく弊社の埋設物等はないので大きな影響はないかと考えている。

ベンチの設置は難しい話ではないと考えており、決定ではないが、社内で打ち合わせを行いたいと考える。

【委員】 鳥取市の用地内で駐輪場があるが現実的には2つもいない。

J Rの用地でなくても、市の所有地でどういったものを作っていくかを考えることが一番現実的ではないか。

【委員】 事務局が詳細な図面を作成し、そこに私達が提案を落とし込めるようにしていただきたい。

【事務局】 予算については、令和 9 年度に向けて要求を検討していく。

皆さまのご意見をまとめて具体的な形にし、再度 J R と協議をした上で改めて提案をさせていただきたい。

また、駐輪場については必要最小限の設置を考えている。駐車場については装整備が必要だと考えている。

2. 鉄道利用促進について

・簡易改札機（ICカード対応）の設置

【事務局】 「令和 7 年 鳥取市政 10 大ニュース」に J R 鳥取駅に自動改札機が設置され、IC カードが鉄道で利用可能となった話題が 1 位となり、市民の関心の高さが伺える。こういった背景から、鉄道利用促進の取組として、J R 福部駅に IC カード対応の簡易改札機の設置は可能か伺いたい。

【J R】 令和 7 年 3 月から J R 鳥取駅にも自動改札機が導入され、J R 倉吉駅まで IC カードが利用できる状態となっているが、山陰エリアには点々と設置されており、全ての駅で IC カードが利用できる状況に至っていない。

本来、IC カードはお客様や外国人観光客の方も含めて利便性が高まることは弊社も重々承知をしている。駅の利用状況を見ながら、J R 西日本全体の中で判断していくことになる。

- 【事務局】 JR鳥取駅から東側のICカードに対応する自動改札の整備については、昨年の10月頃に岩美町、新温泉町、香美町の各町長がJR山陰支社へ要望を提出している。特に岩美町はアニメのイベントで県外から多くの観光客が訪れるが、鉄道を利用する際は現金のみしか使用できず、非常に苦勞されたと伺っている。新温泉町や香美町も含めて整備が進む中でJR福部駅も併せて設置していただければと考えている。いずれにしても、駅の利用者が増えないと設備の維持ができなくなるので、事務局としては、JR福部駅の利用者を増やす取組を推進していきたい。
- 【委員】 ICカードの仕組みとして、ワンマン列車などにICカードの読取機を設置することは可能か。
- 【JR】 実際に境港市のJR境線では、車内でICカードをタッチする端末は導入している。しかし、JR境線は試行中で、誰がどこから乗降して料金はいくらかをといった情報のやり取りを通信で行う仕組みとしているが、他線区までの拡大には至っていない。
- 【委員】 ICカードではないが、JR福部駅の駅舎に地元出身のイラストレーターが福部町をテーマとした壁画を描いている。駅構内に白い壁の待合室があるが、これも駅舎と同様に何かイラストを描くようなことは可能か。
- 【JR】 駅舎と同じような形でイラストを描くのは可能だと考える。
また、JR福部駅ではないが、上からぶら下げた観光看板などが昔はあったが、老朽化により落下するため、今は設置をするのが難しくなっている。今あるものにデザインしてもらう方がやり易いと考えている。
- 【事務局】 少し古い数字になるが、令和5年のJR福部駅の平均乗客数が1日108人しか利用されていない。一つの手法として、もっと乗客数を伸ばす取組を行う必要がある。その一つとして、例えば、北近畿方面からJRを利用して来られた観光客がJR福部駅で下車し、鳥取砂丘に向かうという流れが出来れば、もっと利用者が増えるということで、昨年の8月から福部循環バス「らっちゃんバス」を鳥取砂丘までルート延伸をし、町民だけではなく、観光客も利用できるようにした。運営を行う鳥取市社会福祉協議会に確認をしたところ、昨年11月末までの約5ヶ月間で56名の利用があったと報告をいただいている。1ヶ月に約10名程度がJR福部駅から鳥取砂丘に向かっている動きがみられる。まだPRが追い付いていない状況だが、そういったニーズがあるので、北近畿方面へPRを強化していけば、北近畿方面から来た方がJR福部駅を拠点に鳥取砂丘へ動いていく流れが出てくると考える。